

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

川崎市を3つの南部・中部・北部の地域リハセンター圏域で見ると、それぞれの特徴がある。

南部…万対病床数が少ない、中部…一部の区で地域移行の取り組みがある、北部…関係機関のネットワークが形成されている各圏域の特徴を生かし、構築支援事業を実施していく可能性がある。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
支援のすそ野を拡げるために <ul style="list-style-type: none"> 医療、地域関係機関相互の顔の見える関係づくり 医療、地域関係機関職員を対象にした人材育成、バックアップ体制の充実 社会資源の充実、普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・地域定着支援部会での取り組み 長期目標、短期目標を設定し、4つのワーキンググループ(連携、人材育成、社会資源、居住支援)により取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 部会内で、地域移行の支援状況や、モデル圏域の取組状況や国会議の情報提供を実施し、様々な状況共有を行った。 連携、人材育成、社会資源、居住支援のワーキンググループは、各グループにおいて活動し、媒体物の作成、施設見学会、交流会等を実施した。
同上	<ul style="list-style-type: none"> 北部圏域(多摩区・麻生区)をモデル圏域と設定し、地域連携支援事業を継続実施し、検証する。 南部・中部圏域でのヒアリングとアセスメントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 北部圏域において、個別支援と院内プログラム活動を実施 南部エリア、中部エリアの医療機関にヒアリングを実施し、中部エリアで個別支援を開始した。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①地域移行支援未実施事業所の個別支援の実施	3人	4人	密着ADからの側方支援を受けながら、個別支援を実際に実施、中部エリアでスタート
②精神科医療機関と地域関係機関との共同プログラムの実施	9回	10回	ピアも含めた意欲喚起プログラムの実施
③居住支援協議会との共同企画の実施	—	—	家主・不動産店向け啓発物完成

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。